

よみとりとよむ

ハイレベル
12
よみとりとよむ
夏の王さま

※問題文は『わくわくエブリスタディ』をご覧ください。

月 日

1 上の文しやうを 声に出して読みましよう。

2 は、ぼくが 心の中 まで さげんだことばです。どのように 読むと よいか 考えて、声に出して 読みましよう。

3 と ありますが、オニヤンマをつかまえた しゅんかん、ぼくは どのように かんじましたか。

いっしゅん、体がうかんだ気がした。

4 ひなこは、つかまえた オニヤンマの 大きさを どのように かんじましたか。

鳥みたいに大きい。

5 ぼくや ひなこが 見た オニヤンマの 絵を 紙に 書いて みましよう。

出典 ★ 黒くさく作「なつのおでん」(ポプラ社刊)

はげましらん

今回の学習のねらい

- 登場人物の心情を考えて読む。
- 描写された事柄から事物の様子を想像する。

支援のポイント

- 「どんな気持ちで読むといいかな？」あるいは「とんぼの王さまを見つけたとき、○○ちゃんならどんな気持ちになるかな。」などと語りかけ、「ひこうきみたいなのでつかい とんぼ」を見つけた感動を表現するのになさわしい読み方を考えてもらいましょう。「心の中で」叫んだという記述から、声を殺すように読んでもよいでしょう。
- ひなこの会話を引つけて感動を読み取ることがポイントです。「ひこうきみたい」「たからものみたい」と答えた場合は、「ひなこが思ったことが書いてあるところは、ほかにあるよ。」「大きさはどう感じているかな。」と問いかけましょう。
- 問題文の描写から「王さま」であるオニヤンマの姿を絵に描いてみる取り組みです。描く前に「お話では、オニヤンマのことがどんなふう書いてあるかな？」などと問いかけて、オニヤンマの特徴をとらえさせましょう。お手元に紙を用意してから取り組みてください。

ほめ方のポイント

- 音読の学習では、すすんで工夫して読もうとする態度をまず評価してあげてください。ここでは「王さま」を見つけた喜び、あるいは驚きなどを声で表現することになりますが、「ぼく」の気持ちをお子さまなりに工夫して読んでいると認められれば、「ぼく」の気持ちを引つけて、上手に読めたね。「王さまを見つけた」「ぼく」の気持ちがよくわかる読み方だったよ。」といった言葉でほめてあげましょう。
- 文章から得たイメージを絵で表すことが目的なので、リアルさにこだわらなくてもいいです。問題文には色の記述がありますが、どこが何色なのかはわかりません。

また、例えば「とらみたいになりっぱなな」を描くために肩を極端に大きくしたり、「たからものみたいに」星を散りばめたりするというように、子どもは印象に残ったことを強調して描く傾向があります。どうしてそのような絵にしたのか、理由を説明してもらったうえで、お子さま自身のイメージを絵で表現できたことを大いにほめてあげましょう。